

# 法華寺だより



## 釈尊成道会☆唱題行



お釈迦様が菩提樹の下で二十一日間の瞑想により仏道を成就されたのが十二月八日の早朝。その間様々な心の葛藤に悩まされながらも、それらに打ち勝ち悟りに到達されたそうです。

苦しみや悩みさえ、御仏の思しめしであると受け止めなさい。全ての人は仏になれる。その仏の命は永遠であると説かれています。仏への道を目指して、お題目を無心にお唱えしましょう

### 南無妙法蓮華經

### 〇 涅槃 〇

「ねはん」 サンスクリット語に由来。吹き消すこと、吹き消した状態と言うのが元の意で、そこから煩惱の炎を吹き消し、迷いのなくなった安らかな境地を指す言葉となった。煩惱には、心の迷いは吹き消されても肉体がまだ残っている「有る涅槃」と心も肉体も完全に滅して煩惱再燃の余地が無く

### くらしの中の 仏教語

なつた「無余涅槃」とがある。この無余涅槃のことを小乗仏教では「灰身滅智」と言つて修行者の最終目的とするが、現実社会の仲で利他の積極的な実践(菩薩行)を強調する大乘仏教では一種の虚無主義として批判した。

法華経では、涅槃は釈尊の御入滅を意味し、更に久遠の仏であるとされている。  
【仏教語散歩】  
(さだまる新書)参照

## いざ挑戦 日蓮検定

【三級その③】  
日蓮は生涯に二度流罪に処せられていますが、一二六一年(弘長元)五月に配流された地は、どこか?

- 1...伊豆国
- 2...佐渡国
- 3...甲斐国
- 4...安房国

## お月見コンサート

十月二十四日、橋詰真由美・真理さん姉妹による歌とヴァイオリンの共演による集いが当山本堂で行われました。

第一部は、宗歌「立ち渡る」に始まり十曲余の真由美さんのソプラノ熱唱、第二部は真理さんのヴァイオリンでトロイメライなど十曲ほどが演奏されました。用意した椅子が足りないほどの盛況でした。



- 1...伊豆国 松葉ヶ谷の法難の翌年、鎌倉に戻った日蓮は捕らえられ伊豆の伊東に流された。
- 2...佐渡国 一二七一年(文永八年)十月に佐渡に流罪
- 3...甲斐国 鎌倉から身延山へ
- 4...安房国 小松原法難

## ご案内

### 十二月

- 八日 釈尊成道会・唱題業
- 十四日 忘年会
- 一月
- 元日 新年祝祷会
- 四日より 新年棚経
- 十五日 毘沙門会・初お講

心といのちの相談所  
老若男女幾つになっても悩みや心配事の絶えないもの  
……ご来所やお電話を……  
TEL 一二三四〇三三



今月の聖語

いつさいくどく あわ  
一切の功德を合せて

みよう もじ  
妙の文字と

たも  
ならせ給ふ

【妙の意味】

功德は、善い結果をめぐらす精進努力のことです。妙は、細やかで美しく優れている様子です。更に自然や人、文物を見てその心に触れることを意味しています。

「妙心尼御前御返事」より

日蓮聖人御遺文



覚書

十一月

- 三日〜六日 インド竜宮寺
- 五日 厚岸法華寺お会式
- 十三日 宗祖小松原法難会  
宗歌練習
- 二十三日 音更妙源寺お会式
- 二十六日 北見日定寺お会式
- 二十七日 明和会（宗務院）
- 二十九日 異体同心の集い
- 三十日 帯刑教誨



一休み

●「日蓮宗信行読本」より（拾い読み）●

第四章 日蓮宗の葬儀と追善供養

1 日蓮宗の葬儀と追善供養

(4) お墓は故人と私たちの出会いの場  
身延へ詣ることは聖人にお会いすることと前回書き  
ました。お墓や仏壇などへ詣ることは、ご先祖の霊と  
挨拶を交わす事になります。亡き人を偲ぶ真心を込め  
て建てられたお墓や仏壇です。「亡き人を供養したい、  
感謝したい」という念があなたの心に生まれたとき、  
故人の霊はお墓や仏壇であなたの現れるのを待ってい  
ることでしよう。あなたが唱えるお題目、香・花・灯  
明が亡き人を励まし、あの世での修行を助けること  
でしょう。お墓や仏壇がお寺にある場合には、まず先に

「奉仕に感謝」

- ☆布薩会と婦人会 様 寺庭等の環境整備、諸準備等々
- ☆様、 ☆様
- ☆様

法華和讃

（五十一）

ふたおや みはか ここ おくのいん  
両親の御墓は此処ぞ奥の院

ひごと おが あわ うみやま  
日毎に拝む安房の海山

なむみようほうれんげきよう

南無妙法蓮華経

妙法和讃

三私見

【両親のお墓】勿論日蓮聖人の父妙日と母妙蓮のお墓、身延山の頂上にある

【安房の海山】日蓮聖人が生まれ育った懐かしい故郷。聖人は幾度となく麓から登ってきて、遙か彼方の故郷をしのんだという

本堂のご本尊などにお詣りしましょう。先祖代々を守るとは、両親をはじめとするいくたの先人に感謝し、御仏の教えに沿って先人の遺徳に恥じない生き方をすることでもあります。自分もいつの日か安らかに眠る場として墓を考へることもできます。遺骨の一部を山や海に散骨するのにもある意味で仏教的です。お墓そのものは遺骨のあるなしにかかわらず、生きている自分たちが故人を偲び、感謝し、生きる指針を与えてくれる霊魂が宿る場所であるのです。

編集後記

◆二十三日は冬至◆昨今は寒さが真冬より身にしみる◆季節の変化に体が順応していかないのではありません◆年々、生活環境の変化に体調や心情・技能等の対応が鈍くなっている◆周囲の変化に付いていけない◆同年代の人でも柔軟に対応しているのを見ると情けなく思うが、これも仕方がない◆でも、彼奴らだってそのうち……と慰める昨今◆  
◆山崎記◆

参照・引用

- ※日蓮聖人聖語カレンダー
- ※「日蓮検定」
- ※「日蓮宗新聞」
- ※「日蓮と日蓮宗」
- ※「仏教語散步」等々